



■ 25日、北海道の札幌ドームに於いて、大谷翔平選手のお別れ記者会見が行われた。紺色のスーツで現れた姿に多くのファンから盛大な拍手が沸き起こった。最初のあいさつは英語で「お久しぶりです」から始まった。高3の時は、すでに米大リーグ入りを希望していた。その高校生の時、春の選抜で対決をしていた藤波投手が「大谷君からホームランを打たれました。あんな凄いアーチ見たことない」と当時を振り返る。どの球団も打者としての魅力を感じ、一方160kで投げる剛腕にもピッチャーとして魅力を感じた。そして日本ハムがその両方の夢をかなえた。プロ生活5年の月日が流れ、ついに幼いころからの夢の舞台、大リーグへのチャンスをつかみ取ったのである。多くのファンは、日本での活躍をまだまだ観ていたいが大リーグでの活躍も観たい。こればかりは、二刀流というわけにはいかない。エンゼルスでどんな活躍してくれるのか。何か大きなことをやってくれそうな気がしてならない。

■ 米大リーグ18年目を迎えるイチロー選手。2001年に渡米し、誰もが失敗すると予想をされていた一人であった。バッターとして成功した日本人はいなかったからである。彼が米大リーグを表明した時ですら、彼の恩師（高校時代監督）は、「竹ひごが丸太に挑戦するようなもの」と心配の声を上げた。ところがどうだ、1年目から240本以上のヒットを放し、最多では2004年に84年ぶりに当時シスラーの記録を上回る262本の記録を作ってしまった。180cm、71kの身体から想像もつかない活躍である。今や大リーグ記録3080本の記録は22位。小さいころからプロ野球の選手になりたい。そして自分のできることを毎日着実に成し遂げていく。この繰り返しは「とんでもないところに行きつく」と、あるインタビューで語っている。

■ 共通して、すごい選手を見ると親はどんな育て方をしたのか、何か持っているものが違うのではないか。いろいろ想像をしてみるのだが、よく聞く言葉に「興味を示して打ち込むことをいつも応援している」と語られる親御さんが多い気がする。

■ 日々変化する子ども達。親の思うようにはいかずというところだが、今できること、これは、共通して～個々何かしらあるのではないだろうか。間もなく終わろうとする2017。平成の声もあと少し。今のうちにできることをして、明日につなげていく。いつの時代も同じことの繰り返しなのか。一年の始まりである、お正月くらい夢を語りあいたいものだ。2017.12.27